

# 漆芸美術館だより



大角裕二《蒔絵乾漆箱「秋水」》 第42回日本伝統漆芸展 東京都教育委員会賞

# 101

第42回日本伝統漆芸展  
所蔵作品紹介—海辺の景色—  
ミュージアムショップからのおしらせ  
寄附の御礼  
美術館の近況  
2025年1月31日発行

# 第42回日本伝統漆芸展

会期

2025年2月1日(土) ~ 2月24日(月・振休)

\*会期中無休

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は日本工芸会の漆芸部会展として、伝統の継承とその錬磨、現代への応用を目指して開かれています。第42回となる今回は、東京・輪島・高松の3会場を巡回し、受賞作7点を含む全82点を展示いたします。

東京都教育委員会賞を受賞した大角裕二氏の《蒔絵乾漆箱「秋水」》(表紙)は、乾漆造りの箱に晩秋の溪流を描いた作品です。朱の乾漆粉や金平目粉を用いて流水を、銀粉で伏彩色した白蝶貝で飛沫を表しました。箱は地殻の変動や風水の浸食によって形成された陸地をかたどっています。人は古来「痛手を負いながらも造形された風景や動植物を愛で、その時々的心情を重ね合わせて」きたと語る作者は、流水と舞い散る紅葉に様々な思いを巡らせながら制作し、心情と形態、水の流れを見事にマッチさせました。

文部科学大臣賞を受賞した北岡省三氏の《彫漆流動文鉢》(図1)は、小川を流れる水が瀬戸内海に注ぎ込み、陸にぶつかって渦となるさまを描いた作品です。その情景を、たたき塗り手法を用いて、鮮やかな色漆が織りなす濃緑から淡緑へのグラデーションで表しています。形は自由な表現が可能な乾漆にすることで、彫漆の質感を活かし、躍動感のある波を具現化した作品となりました。

奨励賞石川県輪島漆芸美術館賞を受賞したのは、伴野崇氏の《乾漆盤「夜航」》(図2)です。夜に航走する船が残す航跡とその波紋を表し、船に自らの人生を重ね、作家の孤独で自由な世界観に迫ろうとしています。乾漆の特徴を活かして、内側の繊細な波紋、そして側面から高台にかけて美しいフォルムを形成しています。日本産の漆を用いて、中途りに黒漆(素ぐろめ漆)と朱漆でぼかし塗を数回施し、最後に透漆で塗り立てています。その卓越した髹漆技術が評価されました。

重鎮から新進までがしのぎを削り、漆工芸の多様な挑戦と、各産地の伝統が育んだ地域性を見ることができる展覧会となっています。日本の漆芸界を牽引する輪島での開催を通して、多くの方にご覧いただければ幸いです。

(北澤瑞希)

## 【列品解説のご案内】

会期中出品者による展示作品の解説を行います。

2月2日(日) 田中義光氏(鑑査委員)

2月16日(日) 寺西松太氏(審査・鑑査委員)

いずれも13時30分開始 \*入館券が必要です。



図1 北岡省三《彫漆流動文鉢》文部科学大臣賞



図2 伴野崇《乾漆盤「夜航」》奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞

所蔵作品紹介 — 海辺の景色 —

震災により変わりゆく景色を見つめながら、能登の風物に心を寄せてきた作家たちの作品を紹介します。

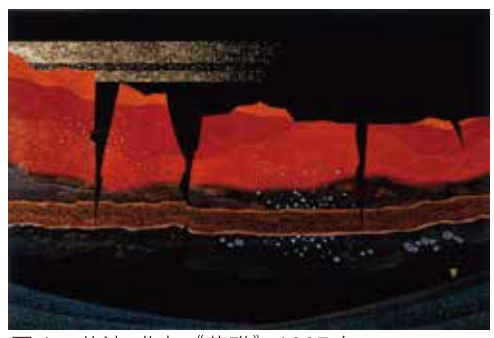


図1 井波 唯志 《茜礁》1997年

波飛沫あがる赤い岩礁、穏やかな海と防波堤、いずれも海を身近に暮らしてきた作家による心象風景を表現した作品です。

井波唯志（1923-2011）は長年能登の海岸を歩き続け、岩礁などをモチーフに心の中につくりあげられた詩的な世界の表現を追求しました。井波は制作について「海に立って、日の出前の張り詰めた瞬間の静けさ、日没のすこしざわめいた潮騒の中で岩と対面していると、何もかも忘れる。自然の語り掛けに耳を澄まし、もう一つ別の次元に入り込みたい」というコメントも残しています。《茜礁》（図1）では波や飛沫は螺鈿で表現され、連なる赤い岩礁には羽ばたく鳥が浮かび上がります。



図2 木谷信熾 《彩海》1978年

木谷信熾（1932-2009）は港や稲はぎ干しなど身近な日常の光景を、色漆や板金を用い独自の風景として表現しました。《彩海》（図2）では防波堤に囲まれた穏やかな海を色彩の濃淡で表現しています。全体にかかる赤い網が木谷の心象風景であることを思わせます。

昨年の震災で能登の海岸は大きく隆起し、最大5・5mもの上昇が確認されました。浜辺を歩けば元々海底であった白いぼこぼことした岩場が目にとまり、港には整備のための大きな重機が並びます。今回紹介した作家たちが長年目にしていたであろう景色からは大きく変わってしまいましたが、心に描いた景色は変わることはありません。そして波は今日も変わらず打ち寄せています。

（小島美里）

\* 輪島塗とともに 井波唯志の歩んだ道（下）、北陸中日新聞、1997年5月14日、朝刊26面



輪島港付近では再整備の工事が進む（2024年12月6日撮影）

ミュージアムショップ

からのあしらせ

石川県輪島漆芸美術館ミュージアムショップでは、公式キャラクターわんじまのオリジナル新商品を販売しています！



▲ ブランケット（全5色）  
約90×60cm、ハンドルバック入り



▶ トートバッグ（ネイビー・グレー）



▶ スリムポーチ（ネイビー・ピンク）

# 石川県輪島漆芸美術館への寄附の御礼

当館へご配慮いただきましたこと、職員一同御礼申し上げます。  
寄附金は震災復旧等、美術館運営に有効に活用させていただきます。  
※公表の承諾を得た方のみ受付順に掲載しています。[お名前・団体名/金額]

- ・漆芸 2345 の会 / 24,000 円
- ・Sha Sha Higby and friends from Tsuwano / 15,000 円
- ・一般社団法人 輪島市観光協会 / 50,000 円
- ・能美市九谷焼美術館、五彩館、作家友の会 会長 山田 義明 氏、  
能美市美術作家協会 理事長 武腰 一憲 氏 / 84,230 円
- ・清水 康志 氏 / 50,000 円
- ・石川県博物館協議会 / 20,000 円
- ・株式会社 金沢美術倶楽部 / 1,231,482 円

2025 年 1 月 20 日現在



入口前はスロープ状に舗装済みです



漆の里広場に仮設工房が出来ました(右)

## 美術館の近況

**開館時間** 9:00 ~ 17:00 (入館は閉館の30分前まで)  
\* 2月24日(月・振休)は16:00閉館

**休館日** 2025年2月25日(火) ~ 3月5日(水)  
\* その他、修繕工事のため臨時休館となる可能性があります。  
来館前には当館公式ウェブサイト、SNSにてご確認ください。

**交通案内** \*所要時間は道路状況により前後する可能性があります

- のと里山空港から 車(約30分)
- 金沢駅から 北鉄バス輪島特急線を利用  
(輪島ふらっと訪夢 輪島駅前まで約3時間)
- 金沢市内から のと里山海道を利用(約2時間)
- 「道の駅・輪島ふらっと訪夢 輪島駅前」から 徒歩(約25分)

### 入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大学生	320円	210円
小中学生	150円	100円

〒928-0063  
石川県輪島市水守町四十苅11番地  
TEL 0768-22-9788  
FAX 0768-22-9789  
www.art.city.wajima.ishikawa.jp

